

## 静脈炎・血管痛への対処法

抗がん薬は正常な細胞に対しても毒になります。抗がん薬が血管内に入ると、血管内の内皮細胞を傷つけ、静脈炎や静脈血栓を起こしたりすることがあります。静脈炎とは、静脈内に留置したカテーテル(プラスチックの針)や薬剤が起こす静脈内の急性炎症です。

### 1) 原因

- ・ 薬の性質によるもの

#### ①薬の pH (酸性・中性・アルカリ性)

血液の pH は弱いアルカリ性でおよそ pH7.4 程度といわれています。薬の pH が酸性側やアルカリ性側にかなり傾いたものである場合、血管に刺激を与え、痛みや炎症を引き起こす原因となります。

#### ②薬の浸透圧

浸透圧が異なる溶液に接触すると、血管内皮細胞の障害が引き起こされます。

#### ③薬の刺激性

注射部位の血管内皮細胞に障害を与えると考えられます。

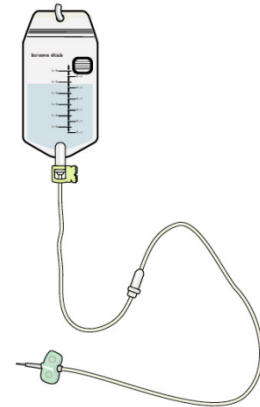
- ・ その他

点滴の投与速度、血管の収縮、血管内の流れの滞りによる薬との接触時間の延長などが考えられます。

《静脈炎・血管痛を起こす、代表的な抗がん薬》

- ファルモルビシン
- ジェムザール
- ダカルバジン
- ナベルピン
- エルプラット
- アドリアシン

他にも起こる可能性のある薬があります。



### 2) 静脈炎・血管痛の症状

- ・ 点滴の針が入っている所の周辺やその腕の赤み、痛み、違和感、腫れ。
- ・ 点滴終了後の血管のつぶれ感・硬くなる・赤み・色が変わる(色素沈着)。

### 3) 静脈炎・血管痛の対処方法

静脈炎・血管痛を予防するために、以下のことを考慮し、点滴の針を刺します。

- ・ 血流の良い太い静脈をできるだけ使用する。
- ・ 毎回、できるだけ穿刺部位を変える。
- ・ 長く針を留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管はさける。

必要時、点滴中にホットパックを使用し、血管を温め、広げ薬が接触する機会を減らし、静脈炎・血管痛の予防・緩和を図ります。血管痛や違和感が出現した場合、血管の外に薬がもれていないかをまず確認しますので、必ずすぐに看護師を呼んでください。必要時には、針を差し替えます。

#### ☆ホットパックとは☆

アイスノンのようなジェル状のパックを温めて使用します。

### 薬剤別の対処例

#### 《ファルモルビシンを使用の方》

点滴終了後は、冷やすことで点滴後の血管炎を予防していきます。冷やすのはアイスノンやお菓子の保冷剤等でも構いません。3日間続けてください。

点滴中に静脈炎や血管痛が出現した場合は、症状が落ち着くまで入浴等、血管を温める行為は控えてください(シャワーはかまいません)。痛みが続き、腫れるようでしたら、病院にご連絡ください。

#### 《ダカルバジンを使用の方》

ダカルバジンは光や熱によって分解されやすく、光分解によって生じた物質が血管痛を起こすと考えられています。そのため、点滴ボトルから点滴の針が入っている腕まで、光を通さない袋をかぶせます。また、部屋のブラインドを下ろし、電気を消すことで、薬に光が当たるのを防ぎます。帰宅後、点滴を行なった血管に痛みが出現したり、血管にそって赤く腫れるようでしたら、その部位を冷やして、病院にご連絡ください。

#### 《その他の薬剤を使用の方》

帰宅後、点滴を行なった血管が痛くなったり、赤く腫れるようでしたら、その部位を冷やして、病院にご連絡ください。

